

六合の名は。

歴史文化二班

ねらい

六合の地名の由来について調べ、
自分達の住んでいる場所への
理解を深める。

調査方法

- 本で調べる
- 龍澤寺の和尚さんにインタビュー
- インターネットで調べる

和尚さんに、インタビュー！

～六合ができるまで～

明治二十二年、草津村が制定



六合と草津に経済格差が生じる



相談と協議の結果、明治三十三年に分離



入山、小雨、生須、赤岩、日影、太子の
六つの部落を合わせ六合という地域になった。

インタビューの様子です！



地名の由来

入山

～予想～

- ・ 山の入り口
- ・ 山の中にある地域

山に関係している？



地名の由来

～結果～

①深い山の入り口。

②建久三年に源頼朝が狩りをする際に花敷を訪れ温泉を発見し入浴。その時に、

「山桜 夕陽に映える 花敷きて

谷間にけむる 湯にぞ入る山」と

詠んだことから、温泉を花敷、地名を入山と名付けた。

地名の由来

小雨

～予想～

- ・日本のどこかに大雨という場所があって、そこと関係がある。
- ・その場所で小雨がよく降ったから。
- ・小降りの雨による被害が多かった。



地名の由来

～結果～

- ①小さくて狭い場所という意味である
「こせまい」から「こさめ」に転じ、
「小雨」という漢字が当てられた。
- ②大正十一年、歌人若山牧水が旅の途中に
「おもはぬに 村ありて名の やさしかる
小雨の里と いふにぞありける」と
詠んだことから名付けられた。

地名の由来

生須

～予想～

- 白砂川と関係がある。
- 川を農業用水に利用していた。

水に関係している？



地名の由来

～結果～

須川沿いに、沼地と州（砂礫）の場所が点在していた。「沼州」（ぬます）の読みから、「なます」に転じた。

地名の由来

赤岩

～予想～

- ・ 赤い岩があった。
- ・ 赤い岩を色々な用途で利用していた。

地名の由来

～結果～

集落の北側の高間山から続く斜面に、赤色の岩が目立ってあることから名付けられた。



地名の由来

日影

～予想～

- 日当たりが悪い。
- 日陰が多いから。
- 日が昇ってもほとんど影になった。

地名の由来

～結果～

家々が西向きに位置していることで日が山に入るのが早く、日照時間が少ないために日陰が多いのが由来。（定かではない）



地名の由来

太子

～予想～

- ・ 太った子供がいるほど食べ物がたくさんあった。
- ・ 聖徳太子に関係している。

地名の由来

～結果～

「おほち」（くぼんだ土地、凹地つまり高い所から急におちこんだ坂）の読みが「おおし」に転じた。



反省点

- 地名の歴史がある場所に実際に行くことが出来なかった。
- 地名の意味や歴史を広める活動が出来なかった。
- 地域の方々など、周りの人にも地名についてインタビューしたり、意味を予想してもらえばよかった。

感想

私たちの住んでいる地域の名前の由来を知り、普段何気なく過ごしている場所にも古くからの歴史があった事が分かりました。

今回のふるさと研究を通じて、改めて六合の素晴らしさを知ることが出来ました。

これからも自分達のふるさとを誇りに思い、大切にしたいです。

制作

歷史文化二班

ご協力いただいた方

龍澤寺の和尚さん



出典

- 日本の地名辞典（群馬県編より）
- 六合村誌